

2008年12月23日(火) 朝日新聞掲載

JVC コンサート実行委員長:アイネス・バスカビルが朝日新聞「ひと」欄に紹介されました。

ひと

「歌う国際協力」のクリスマスコンサートを20年続ける

Inez

Baskerville

アイネス・バスカビル さん (70)



まちがクリスマス一色に染まるころ、東京と大阪で日本国際ボランティアセンター(JVC)の国際協力コンサートが開かれる。プロの音楽家が、市民合唱団とともにヘンデルの「メサイア」などを歌う。

初回の89年から実行委員長を務めてきた。今年で東京が20回目、大阪が15回目だ。マキシム・シヨスタコフ、ビチ氏ら著名な音楽家もボランティアで出演した。これまで約2億円の収益を、途上国で復興支援などに取り組むJVCに提供している。

「チケットを買っても何も変わらないという人もいる。でも、ささやかでも長く続けることが大事。今年もいい公演ができました」

米ウイスコンシン州出身。64年から約8年、宣教師だった夫と日本で暮らした。80年、夫が材木会社の日本支社長になり再来日。子育ても終わり、「途上国のため何かしたい」とボランティア活動を始める。

86年のクリスマス。JVCが活動するソマリアの難民キャンプで、息を引き取る赤ちゃんを家族と共に送り、遺体を抱きしめる看護師を見た。何かをしてあげ、物をあげるのがボランティアと思っていた。「でも本当は人々に寄り添うことが一番大切なのだと教えられました」。愛する音楽で支援したいと思った。

自身も合唱に加わる。練習後は合唱団の人たちと居酒屋。左党で知られ、「お新香と日本酒は最高。歌って飲んで友と出会い、人も助ける。そんな活動をずっと続けたい」。

文・小倉いつみ 写真・日置康夫